

## 酪農学園大学との連携協定を拡大し、4者協定を締結しました。

酪農学園大学とは、2010年2月19日に初めて連携協定の調印を行い、乳牛改良にかかわる技術など大学での連携講義を通して、北海道の酪農振興と担い手育成について協力してきました。

当初の3年間の協定期間を終えるにあたり両者協議し、協定の継続を決定。その際、乳牛改良に関し、後代検定のデータ活用方法や意義、交配といった専門性の高い分野について、他団体との協力の必要性から公益社団法人北海道酪農検定検査協会、一般社団法人ジェネティクス北海道の両団体に本協定への参加を求めたところ、賛同を得て、2013年2月4日付で新たに4者協定を締結しました。

これまでは、大学の講義の一環の中で、「乳牛改良プロフェッショナル講座」として連携授業を年6回担当し、ホル農協の事業として実施の「乳牛改良・審査のサクセッサプログラム」では2期に分け年1回4日間の集中講義の中で、大学の教授陣の協力を得るとともに、一部の学生の参加をみながら実施してきました。

今後は、新協定に基づき、北海道酪農検定検査協会が年3回、GHも年3回の講義・実習を行い、さらに、当組合はこれまでの年4回の講義のほかに、新たに3回の計7回の講義・実習を実施することになります。

4団体での連携協定になったことで、これまで以上に人材の育成や教育・研究の推進、特に乳牛改良に係る専門的な教育プログラムの開発や試験研究、情報提供サービスの充実を図り、北海道の酪農振興と担い手育成に取り組んでいきます。

